（様式１）

県立勝田工業高等学校【総合的な探究の時間の全体計画】（令和７年度）

総合的な探究の時間の第１の目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。
(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

学校の教育目標

教育活動全体を通して、心身ともに健康で豊かな人間性を備えた生徒の育成を図る。ものづくり教育を通して、グローバルな視点を持ち対応できる創造力を備え、地域や産業社会に誇りと愛着を持ち貢献できる生徒を育成する。自らの将来像を明確にイメージし、その実現のために具体的に行動できる生徒の育成を目指す。

各学校で定める目標と育成する資質・能力

探究の見方・考え方を働かせ、進路、ものづくり、地域・社会に関する総合的な学習を通して、自己の在り方生き方を考えながら、主体的かつ積極的に課題を発見し解決していくための資質・能力を育成する

(1) 進路、ものづくり、地域・社会に関する探究の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、地域・社会における産業界の果たす役割や人々の関わりについてグローバルな視点を身に付ける。
(2) 進路、ものづくり、地域・社会の関わりから問いを見いだし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査して得た情報を基に分析したりする力を身に付けるとともに論理的にまとめ・表現する力を身に付ける。
(3) 進路、ものづくり、地域・社会の探究活動に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、社会に貢献しようとする態度と豊かな人間性を育てる。

総合的な探究の時間の学習評価

・評価規準を設け、どのような力が身に付いたかを的確に捉えられるようにする。
・個人内評価だけでなく、他者評価等も組み合わせた評価とする。
・ワークシート、作成した資料、振り返りシート等を評価の対象とする。
・学習の様子や活動の状況などの観察記録による評価をする。
・グループ討論や質疑など、言語活動の様子を記録して評価する。
・授業担当者の間で、評価や指導上の課題を共有する。

生徒の実態

・授業態度や部活動への取り組みは良いが主体的に考え、行動することには苦手な生徒が多い。
・活気があり、落ち着いた学校生活を送る生徒が多いが、ＳＮＳ等のマナーや交通ルールを守れない生徒もいる。
・高校での学びと、卒業後の進路の関連が強く、地元企業に就職する生徒が多い。

生徒の発達をどのように支援するか
○配慮を必要とする生徒への指導

・個に応じた指導と支援
・職員間の情報共有
・外部機関との連携
（地元企業・特別支援学校・行政等）

目指す生徒の姿

・授業や資格取得、部活動等に主体的かつ積極的に取り組み、目標に向かって自ら挑戦する生徒。
・ルールやマナーを守り、周囲のことを考えて行動できる生徒。
・自らの進路を真剣に考え、将来、地域・社会・地元産業界の発展に貢献できる生徒。

各学校が定める内容（目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力）

１年次「総合的な探究の時間」
課題：職業の選択と社会貢献及び自己実現（進路）
単元：科目選択と自己の探求
【知識･技能】
・高校における学習や生活が将来や社会とつながっていることや社会の一員として自分が貢献できることに気付く。職業等に関する必要な情報を収集することができる。
【思考･判断･表現等】
・様々な問題の中から、適切に課題を設定することができる。
・必要な情報を複数の方法で、多面的・多角的に収集することができる。
・課題の解決に向けて、収集した情報を比較したり、関連付けたりして分析できる。
・学んだことを振り返り、学習や生活に生かそうとすることができる。
【学びに向かう力･人間性等】
・探究活動を通して、工業人として地域社会に貢献するために必要な知識を身に付けようとする態度を養うとともに、様々な意見を受け入れ尊重しようとする。
・真摯な態度で課題に向き合い、解決に向けた探究に継続的に取り組もうとする。
・探究を通して、自己の在り方生き方を考えながら、社会の一員として将来社会の理想を実現しようとする。

３年次「課題研究」（「総合的な探究の時間」の代替 ）
次の項目からテーマ・課題を設定しテーマ・課題別学習をする。
（1）作品製作、製品開発　（2）調査、研究、実験　（3）産業現場等における実習　（4）資格の取得
【知識･技能】
・課題研究の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、地域・社会における産業界の果たす役割や人々の関わり中で自身が貢献できることに気づく。
【思考･判断･表現等】
・様々な問題の中から、適切に課題を設定することができる。
・必要な情報を複数の方法で、多面的・多角的に収集することができる。
・課題の解決に向けて、収集した情報を比較したり、関連付けたりして分析できる。
【学びに向かう力･人間性等】
・課題研究を通して、工業人として地域社会に貢献するために必要な知識を身に付けようとする態度を養うとともに、様々な意見を受け入れ尊重しようとする。
・真摯な態度で課題に向き合い、解決に向けた探究に継続的に取り組もうとする。

学習活動、指導方法等

学習活動

(1) 本校のカリキュラムについてシラバスや進路の手引きを用いて教科担当者から説明を受けて自分の選択する系や学ぶ選択科目について理解できるようにし、職業の選択と社会貢献及び自己実現（進路）について探求できるようにする。それをふまえ担任との二者面談や保護者を含めた三者面談に臨み進路決定につなげる。
(2) 探究活動の各段階で、ワークシートを使ってまとめたり、クラスで発表をしたりする。
(3) １年次においては個人での探究活動を中心とし、３年次ではグループで実際に作業や体験をしながら探究活動を行う。

指導方法

(1) 教員で指導するクラスのグループをつくり、チームティーチングで各生徒の指導を行う。オンライン学習教材、問題集および学校自作のワークシート等を用いる。
(2) シラバスと学校独自の進路の手引きを利用する。工業科の各系の教員、各教科の教員がローテーションで各クラスを説明する。
(3) 各教科・科目等との関連を重視し、キャリア教育の視点から充実を図る。
(4) 生徒が学びたい、探求したいという学習意欲や興味・関心が持続できるよう適切な指導・支援を行うとともに、探求課題によっては外部の専門家や地元企業等と連携する。

指導体制（環境整備、家庭・地域との連携）

学習指導部、工業科、各年次のグループを中心として、指導教材や指導方法について定期的に協議するとともに、生徒の学習状況をフィードバックしながら、学校全体で指導に当たることができるような体制を確立する。また、３年次の「課題研究」においては、「総合的な探求の時間」の目標が十分に達成できるよう考慮するとともに、探求課題によっては外部の専門家や地元企業等と連携して課題解決に取り組むことができるようにする。